

II 生涯学習に関する京都の特性と課題

1 長い歴史と伝統に育まれた豊かな文化環境

(F)

京都には、全国の国宝の約20%、重要文化財の約15%が存在しているほか、様々な社会教育関連施設・大学・社寺等が存在し、また、多数の学識者・芸術家・伝統的産業の技能者等が居住するなど、学術、文化、教育等の面で人的・物的資源や情報が、量的にも質的にも豊富に存在しています。それらは、様々な特性をもつ京都文化の伝統の中で、市民の文化的・教育的識見の確かさとも相まって、守り、育くまれてきました。今日の、市民の学習活動に対する意欲の高まりや様々な学習活動の展開の背景には、こうしたハード面、ソフト面での文化環境の豊かさがあることを見逃すことはできません。しかし、そうしたいろいろな資源や情報が「市民一人一人のものとして効果的に活用されているか」と言えば、必ずしも十分であるとは言えません。こうした素晴らしい資源・情報や、次に掲げるような京都の文化が持つ様々な特性を十分に生かし、真に市民一人一人の生涯学習に役立たせることが必要となっています。

－京都文化の特性－

① 文化の創造性

京都文化は、単に古いことを誇るだけではなく、常に時代の中でクリエイティブな歩みをたどってきました。そうした文化の土壤の中で、民衆に開かれた江戸時代の私塾や自由な学問の伝統も育ってきたのです。⁽¹¹⁾

明治初期の京都が迎えた危機を市民の知恵で数々の復興策を作り出し、乗り切ることができたのは、こうした創造性にあふれ、市民に開かれた教育・文化の土壤があればこそ可能となったものです。

産業面をみても、伝統によって蓄積されたノウハウを先端技術と結び付けた高度知識集約型の産業技術が研究されていますが、こうしたことも文化の創造性の一つの表われと言うことができるのではないでしょうか。

② 文化の寄り合い性

「平安京」とはいうものの、京都では、長い歴史を通して非平安の中で、まちづくりが行われてきました。そうした中で、文化創造の基盤の一つとなったのは、町衆をはじめ市民の間で培われてきた「寄り合い」の精神でした。人々は、町会所に寄り合い、教養を高め、情報を交換しながら、⁽¹²⁾⁽¹³⁾

自分たちの文化を作り出し、高い自治意識等を育てていきました。今後、こうした市民自治の伝統としての「寄り合い」の精神を生かすよう、施策の中に位置づけていくことが必要です。

③ 文化の重層性

京都には、長い歴史の中で単に朝廷や宮廷、貴族・公家による王朝文化だけでなく、町衆の手による文化や圧迫された民衆から生み出された芸術など、様々な文化が重なり合って存在してきました。そのことが、京都の文化を一層深みのあるものにしてきたのです。

この文化の重層性は、一部の限られた人々だけでなく、広範な人々を対象として生涯教育を進めるうえでの土壌となるものです。

④ 文化の国際性

平安建都の時代から 京都は、世界に開かれた国際都市としての独自の役割を担ってきました。その文化創造の過程では、中国や朝鮮文化、西欧文化等国際性豊かな様々な文化が大きな役割を果たしてきました。今後も、世界的な
(Q)
広がりの中での発展を目指していくには、「平和都市宣言」
(R)
や「世界文化自由都市宣言」を踏まえて、自らの姿を見つ

めながら世界に視野を広げ、普遍性を持った施策を推進していくことが求められています。

その場合、単に文化交流の場所的中心ということに満足するのではなく、積極的に交流を生み出す、交流の発信地（14）として、市民レベルでの国際的な交流を推進することが必要です。

そのためには、市民一人一人の十分な国際理解、相互理解が求められますが、その基盤となる個人としての自分自身を見つめ、市民・国民としての認識を深めることも必要になってきます。

⑤ 文化の変革性

京都では、数々の戦乱、天災・飢饉などの中で絶えず時代の激しい変革に対応したまちづくりが進められ、文化が創造されてきました。

21世紀を展望し、新しい京都の創造を目指すとき、時代の変化に柔軟かつ強靭に対応していくことが求められます。このことは、変革性の伝統を持った京都文化にとって決して難しい課題ではないと言えます。

2 地域生活の特性

明治初期の近代化に向けた番組小学校の創設以来、学校は京都独特の学区制度と一体となって、地域のコミュニティの中心としての役割を果たしてきました。もちろん、学校や学区制度の果たす機能は、社会の変化の中で変容してきています。

(15)

しかし、学校と地域の密接な関わり方、あるいは元学区が地域生活に果たしている機能等は、番組小学校が創設された市内中心部だけでなく周辺部へも広がるなど、時代に対応して、また、それぞれの地域の実情に応じて全市的と言える広がりを持ち、他都市にない特色がみられます。

(G)

また、伝統産業やサービス業の占める割合が高く、事業規模においては中小規模の企業・事業所が多いといった産業構造面での特性は、職住接近という形を通して、大都市としては比較的密接な地域社会と市民生活の関わりを生み出しています。

(H)

(I)

しかし、昭和30年代以来の人口のドーナツ化現象、核家族化の進行などは、それまでの歴史的、伝統的な地域社会の構造を変質させ、特に、市内周辺部においては社会資本が未整備なうえ、職住の遠隔化等によって地域活動への関わりが弱

くなるなどの状況を生み出しています。

本市における生涯学習を推進するためには、こうした状況を十分に踏まえながら、学校と地域社会との関わり方や（元）学区の機能などを新しい観点から見つめ直し、地域生活の一環として生涯学習を進めていく方策を検討することが必要です。^(J)この場合に、それぞれの地域の実情を生かした対応が必要ですが、それとともに、あまり地域的な格差が生じないよう留意しなければなりません。

3 人口構成の特性

(C)

京都は、老年入口の比率が、指定都市の中で最高です。今後、市民の高齢化はますます進展し、様々な面での影響が予想されています。

しかし、生涯学習・生涯教育の観点から考える時、高齢化は、決してマイナスの要因ではなく、大きな推進力の一つとなります。

人生80年時代に高齢者が生きがいを持って過ごしていくためには、趣味やスポーツも含めた幅広い生涯学習・生涯教育がどうしても必要です。高齢化の進展に向けて、高齢者の生涯学習、それに対応する生涯教育が一つの焦点であることは、

明白です。そして、21世紀には、全人口の20%を超える高齢者がその知恵や経験・活力を生かして、生涯学習・生涯教育の場で活躍することができれば、生涯学習・生涯教育の一層の発展が期待できます。

また、市民相互の交流を広げながら、心のふれあう長寿社会を作り出すためには、福祉行政など関連分野との連携を十分に図りながら、高齢化に向けた生涯学習・生涯教育を推進することが必要です。

なお、高齢化の問題は、何も高齢者だけの問題ではありません。長寿社会に生きる青少年にとっても大きな課題であり、学校教育や社会教育の垣根を超えて、青少年と高齢者の相互理解に向けた取組等これからの時代を担う青少年教育の充実が望されます。